



の が き 野垣あきことまちづくりカフェ

子ども・くらし・平和

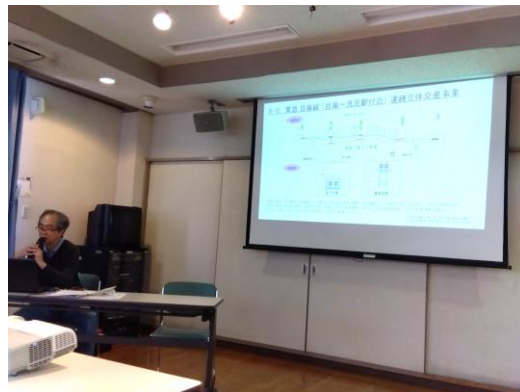


2023年11月 西武線特集号 連絡先 090-9293-8710 ご相談もどうぞ!

西武新宿線 連続立体交差化事業

野方～井荻間の住民のねがいは「地下化」の実現

地下化と複線シールド工法の検討を求める学習会
杉並・中野の住民でつくる「西武新宿線地下化を求める連絡会」(以下、「連絡会」)は、10月8日に鷺ノ宮、15日に野方に続き、22日に下井草で学習会を開催しました。



▲地下化の提案、行政の動きなどを報告

学習会では、西武新宿線の連続立体交差化の過去の経緯や行政の動き、小田急や東急での地下化成功例などが報告されました。

東京都の方針は？

鉄道連続立体交差化事業の事業者は東京都と西武鉄道です。

都は中井～野方間は地下化、井荻～西武柳沢間は高架化で事業を進めています。野方～井荻間の構造形式は検討中です。野方、都立家政、鷺ノ宮、下井草地域の住民は、西武新宿線の地下化と複線シールド工法の検討を求めてきました。

「複線シールド」とは？

複線シールドとはトンネルを1本掘り、その中に上下線を通すものです。対して、単線シールドは上下線をそれぞれ別々にして1本づつ、2本のトンネルを掘るため、用地買収に時間と経費がかかると言われています。(左図参照)

中井～野方間は単線シールドを採用しているために用地買収が予定通りに進まず、工期が6年延長されています。野方～井荻間を高架化した場合は、さらに多くの用地の買収が必要となります。

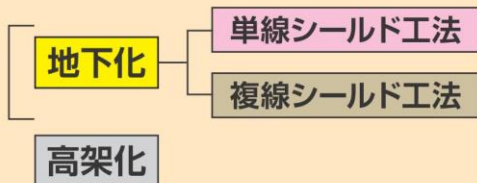
しかし、東京都は高架化と、地下化は単線シールドの検討のみで、なぜか複線シールド工法の検討はしていないのが現状です。

杉並区の動きは？

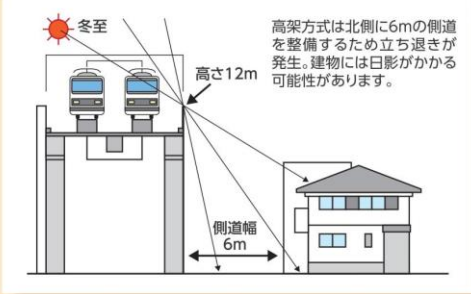
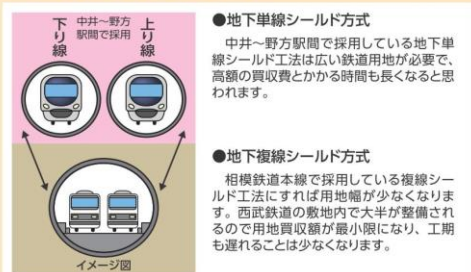
杉並区は「下井草駅周辺まちづくり」として、道路・交通施設整備計画を年度末に策定する予定です。しかし、西武線の連続立体交差化の構造形式が未定のままの計画案では、駅前広場やロータリーの設置など、具体的なまちづくりに繋がっていかぬのかどうか疑問です。

住民からは地下化を求める声や、都内で地下化した他路線での土地利用事例などもまちづくりの参考に、などの声が寄せられています。

鉄道の連続立体交差化には主に以下の工法があります



●シールド方式による違い



「西武新宿線地下化を求める連絡会ニュース」より

今後、人口減少なら今のままでも良いのではとも思う。緑はあったほうがいい。高架化にお金を使うのであれば、年金や子どもの貧困などに使う必要があるのでは？

踏切のそばに住んでいるが高架だと騒音ももっとひどくなる。地下化しかない。

都はなぜもともと複線シールドでの検討をしないのか？

踏切が問題で救急車が通って来れないことがある。

学習会で出された声



高架化になると線路の北側に6mの道路が必要。立ち退きになる場合には(用地外の)残地は買わないと都は言うが、それでは困る。

高架化は地下化より少し安くできるかもしれないが、地下化はそれ以上の付加価値がある。この地下化の提案がなぜ通らないのか不思議。

複線シールド工法による地下化の検討を

都議会へ向けた陳情署名 みなさんのご協力をお願いします！



▲22日の学習会にて

野垣あきこ事務所もこの活動に連帯していききたいと思います。

③ 複線シールド工法は、都内でも大江戸線や副都心線など多数の施工実績があり、昨年度から始まった横浜市の相模鉄道鶴ヶ峰駅付近の連続立体交差事業にも採用されています。

② 鉄道跡地の上部空間は、緑の保全や防災避難経路など、広くまちづくりでの活用が可能です。

① 立体交差化を地下化の複線シールド工法で行えば、現行の線路幅内での工事が可能となり、立ち退きによる買収費用を抑えられ、工期短縮も可能です。

① 立体交差化を地下化の複線シールド工法で行えば、現行の線路幅内での工事が可能となり、立ち退きによる買収費用を抑えられ、工期短縮も可能です。

連絡会は、都議会に提出する陳情署名の活動を始めました。

内容は「野方―井荻間の連続立体交差事業において複線シールド工法による地下化を検討してください」です。理由は次の通りです。

署名の方法

- 署名用紙を「共産党下井草ドミール事務所」(下井草 3-41-5-104)の入口に設置しています。署名して横のポストに投函していただければ、連絡会に届けます。
- 井草、下井草地域の方は野垣までお電話、SMS、メールをくだされば、署名用紙をお届けします。



野垣 090 - 9293 - 8710

akikonogaki1980@gmail.com